

## こぶとりじいさん

むかし <sup>ところ</sup> <sup>おお</sup>  
昔、ある所に、ほほに大きなこぶがある、きこりのおじいさんがいまし  
た。ある日、いつものように山の中で、木を切っていると、<sup>きゆう</sup> <sup>そら</sup> 急に空がくも  
って、<sup>おおつぶ</sup> <sup>あめ</sup> <sup>ふ</sup> <sup>だ</sup> 大粒の雨がザーザーと降り出しました。ピカピカといなずまがひかっ  
て、ゴロゴロとかみなりもなり出しました。<sup>しかた</sup> <sup>ちか</sup> 仕方なく、おじいさんは、近く  
の古い小屋の中で雨やどりする（<sup>あめ</sup> <sup>ま</sup> 雨がやむまで、待つ）ことにしました。け  
れども<sup>つか</sup> 疲れていたののでねてしまいました。

<sup>そと</sup> <sup>ひとごえ</sup> <sup>め</sup> <sup>そと</sup> <sup>み</sup>  
外でガヤガヤとおおぜいの人声がしたので目をさまし、外を見て、びっく  
りしました。<sup>あか</sup> <sup>あお</sup> <sup>あつ</sup> <sup>の</sup> 赤おにや青おにが集まって、にぎやかに、飲んだり、うたった  
り、おどったりしていました。おじいさんは、<sup>と</sup> <sup>ま</sup> 戸のすき間から、ふるえなが  
ら<sup>み</sup> <sup>うた</sup> <sup>たの</sup> <sup>わす</sup> 見していました。しかし歌やおどりが、とても楽しそうなので、こわさを忘  
れて、おにたちの<sup>なか</sup> <sup>で</sup> わの中におどり出ました。そして、むちゅうでおどしま  
した。

<sup>はじ</sup> <sup>じょうず</sup> <sup>おお</sup>  
おにたちは、初めはびっくりしましたが、とてもおどりが上手なので、大  
よろこびで<sup>はくしゅ</sup> <sup>ばん</sup> <sup>き</sup> 拍手をしました。おにのかしらは「あしたの晩もぜひ来ておどっ  
てくれ。<sup>こ</sup> <sup>こま</sup> 来ないと困るから、こぶをあずかっておこう」と言<sup>い</sup>って、おじいさ  
んのこぶをもぎとりました。おじいさんは「あっ！」とおどろきましたが、  
ぜ

んぜんいたくありませんし、かおがかるくなって大よろこびで、家へ帰りま  
した。

さて、この働はたらき者もののおじいさんの家いえのとなりに、もう一人ひとり、いじわるな  
おじいさんがいました。このおじいさんも、反対はんたいのほほに大きなこぶがあり  
ました。いじわるじいさんは、おにおにの話はなしを聞くと、うらやましいと思いまし  
た。それで「わたしも、おおににこぶを取とってもらおう」と言って、いそいで、  
山やまへ出でかけました。

となりのおじいさんは、雨あめが降ふっていないけれど、小屋こやの中なかにかくれて待ち  
ました。おおにたちのえん会かいが始はじまりました。となりのおじいさんは、こわく  
てふるえていましたが、「さあ、今いまだ！」とさけんで、外そとへとび出だしました。  
そして、おどり方かたがぜんぜんわかりませんので、でたらめにおどりました。  
とても下手へたで、へんなおどりでした。

それでおおにたちはびっくりしました。おおにたちは「ゆうべのおどりはとて  
もおもしろかったけど、今夜こんやのおどりはぜんぜんおもしろくない。こんな下手へた  
なおどりは見みたくない。」と言いいました。

おおにのかしらも「ゆうべのこぶはかえすから、もう帰かえれ帰かえれ！」とおこつ  
た声こえでさけんで、となりのおじいさんのほほにこぶを投なげました、大きなこ  
ぶが二ふたつになってしまったおじいさんは泣なきながら、家いえに帰かえりました。

